

# Little Wave “Clik”

---

## 製品取扱説明書



# I. イントロダクション

KiMobilityの車椅子をご購入いただきありがとうございます！

## ⚠ WARNING ⚠

警告：車椅子のご使用前に、このマニュアルをよく読んでください。本書をお読みにならないでご使用になると、使用者や介助者に重大な危害を及ぼす場合があります。

ご使用前に、担当医・セラピスト・車椅子販売店による、この車椅子の安全な使用法についての訓練を受ける必要があります。

この車椅子、このマニュアル、当社またはお客様の小売業者が提供するサービスについてご質問やご不明な点がある場合は、お気軽に電話でお問い合わせください。

株式会社ユーキ・トレーディング  
〒110-0008  
東京都台東区池之端2-5-46  
TEL : 03-3821-7331  
FAX : 03-3821-7552  
MAIL : [info@yukitrading.com](mailto:info@yukitrading.com)  
HP: [www.yukitrading.com](http://www.yukitrading.com)



## II. 目次

I.	イントロダクション	
II.	目次	
III.	通知 - 使用前に読むこと	
A.	使用について	3
B.	安全性について	3
C.	注意喚起の用語	3
D.	シリアルナンバーの識別	4
E.	記号用語集	4
F.	一般的な警告と注意	5
G.	ポジショニングベルト・ポジショニングハーネス	6
H.	走行時について	6
I.	電動ユニットについて	8
J.	車椅子と周囲の環境	9
K.	車椅子の改造	9
L.	車椅子の安定性	9
M.	アフターマーケット製シーティング製品	10
IV.	車椅子の使い方と構成	
A.	上り階段	11
B.	下り階段	11
C.	移乗	12
D.	車載装置の使用時	12
E.	クッションの使用時	15
F.	クリックと構成部品	16
G.	高さ調整式T型アームサポート	17
H.	スイングアウト式アームサポート	18
I.	高さ調整式小児用T型アームサポート	19
J.	角度・長さ段階調整式フリップアップアームサポート	20
K.	リアホイール	21
L.	フットサポートの調整	22
M.	角度調整式フットプレート	22
N.	角度調整式フットプレートハイマウント後方フリップアップ	23
O.	ブレーキ	25
P.	転倒防止装置	26
Q.	表面温度	28
R.	シート生地	29
S.	折り畳み式バックサポート	29
T.	スタンダード5ホイール	30
U.	ダイナミック5ホイール	31
V.	キャノピー	33
VI.	点検と手入れ	
A.	メンテナンステーブル	34
B.	清掃	35
C.	保管	35
D.	廃棄	36
VI.	トラブルシューティング	
A.	症状と解決策	36
VII.	保証	37

# III. 通知 - 使用前に読むこと

## A. 使用について

Ki Mobilityの手動車椅子は、立位での移動が困難な方に移動手段を提供する、医療目的を意図した車輪付きの手動操作装置です。

## B. 安全性について

車椅子やその付属品の使用に関連した重大なアクシデントや負傷は、その出来事が直接的あるいは間接的にユーザーーや他の人に深刻な負傷や死亡につながる場合があります。それらの事象が発生した場合、速やかにユーキ・トレーディングに報告してください。ユーザーーが居住している地域によって相談所等より報告が要求される場合は、併せて報告してください。

このマニュアル全体を読まないままこの車椅子を使用しないでください。使用前に、担当医やセラピスト、車椅子販売店より車椅子の安全な使用法について訓練を受ける必要があります。Ki Mobilityは、お客様のニーズを満たすべくさまざまな機種の車椅子を製造しています。車椅子を選択するための一一番の方法は、担当医やセラピスト、車椅子販売店などの経験豊富な専門家に相談することです。車椅子の機種、オプション、調整の最終的な選択は、あなたと彼ら専門家のみに委ねられています。選択したオプション、および車椅子のセットアップと調整は、そのパフォーマンス、安定性、およびあなたのニーズを満たすか否かに大きく影響します。安全性と安定性に影響を与える考慮すべき要素は以下のとおりです。

- a. 筋力、体幹のバランス、調整力を含むあなたの個人的な能力と素質。
- b. 車椅子での移動時に遭遇する可能性のある危険や障害の種類。
- c. 寸法、オプション、およびセットアップ。特に、座面高、座奥行、座角、背もたれの角度、後輪のサイズと前出し位置、およびフロントキャスターのサイズと位置。

## C. 注意喚起の用語

このマニュアルには、「注意喚起」のための用語が含まれています。これらの用語は、さまざまな危険の重大度を識別して伝えるために使用されます。この車椅子を使用する前に、あなたと介助者は、このマニュアル全体を読む必要があります。注意喚起の用語を意識し、「注」、「注意」、「警告」を考慮してください。必ずすべての指示に従い、車椅子を安全に使用してください。注意喚起の用語は、あなたや他の人に重傷や死亡を引き起こす可能性のある要素または危険な行為を指します。注意喚起の用語は、次の3つのカテゴリに分類されます。

注-回避しないと、車椅子の性能が低下したり、車椅子が損傷したりする可能性のある潜在的に危険な状況を示しています。



注意-回避しないと、怪我や車椅子の損傷につながる可能性のある潜在的に危険な状況を示します。



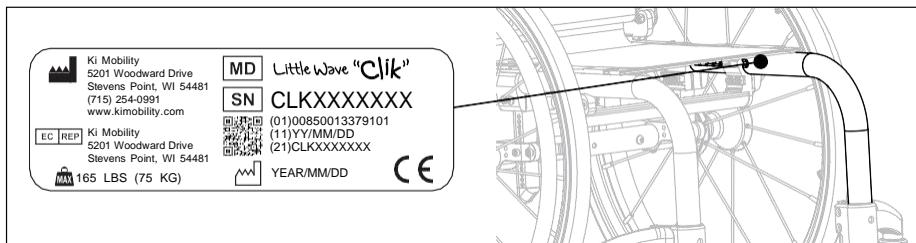
警告-回避しないと、重傷や死亡につながる可能性のある潜在的に危険な状況を示します。

これら注意喚起の用語は、危険な状況を強調するために適宜マニュアルに配置されています。この車椅子の一般的な使用に適用される危険な状況については、セクションFを参照してください。

### III. 通知 - 使用前に読むこと

#### D. シリアルナンバーの識別

シリアルナンバーのラベルは車椅子に関する重要な情報を提供し、シリアルナンバーは車椅子を特定する為に使用されます。シリアルナンバーの位置については、下図を参照してください。



#### E. 記号用語集

記号	意味
	医療機器メーカーを示す記号です。
	製造年月日（年 / 月 / 日）
	注意や警告などの安全上の理由から、ユーザーが指示を参照する必要があることを示します。医療機器本体やパッケージに表示されている場合は、注意や警告などの安全上の理由により、指示を参照してください。
<b>MD</b>	アイテムが医療機器であることを示します。
<b>SN</b>	特定の医療機器を識別できるように、製造元のシリアルナンバーを示します。
<b>EC REP</b>	欧州共同体の正式な代表者を示します。
	製品が該当するEC指令の要件を満たしているというメーカーの宣言を示します。
	ユーザーが使用説明書を参照する必要があることを示します。
	電子形式での使用手順については、リストされているWebサイトをユーザーが参照する必要があることを示します。
	ユーザーが医療製品に関する追加情報を入手できるWebサイトを示します。
	耐荷重を示します (lbs/kg)
	車載フック取り付け位置を示します。
	指などを挟む危険性のある位置を示します。

### III. 通知 - 使用前に読むこと

#### F. 一般的な警告と注意

##### ⚠️ WARNING ⚠️

	標準	車載オプション装着時
Clik	165lbs (75kg)	125lbs (57kg)

警告: 耐荷重は、ユーザー自身と持ち運ばれるすべてのアイテムの合計重量を指します。車椅子の耐荷重を超えないでください。耐荷重を超えると、車椅子の損傷や、転倒、転落のリスクが高まります。転倒や転落により、重傷を負ったり死亡する恐れがあります。

- ⚠️ ウエイトトレーニングに車椅子を使用しないでください。重量が増えると椅子の重心が変わり、転倒のリスクが高まります。転倒すると、車椅子に損傷を与えたり、重傷を負ったり、死亡したりする可能性があります。
- ⚠️ タイヤの空気圧を適切に保ってください。適切でないまま車椅子を使用すると、車椅子の安定性に影響し、転倒のリスクが高まります。転倒すると、車椅子の損傷や、あなたや他の人が重傷を負ったり死亡したりする可能性があります。タイヤの側面に正しい空気圧が表示されています。適正な空気圧がわからない場合、車椅子販売店が判断します。
- ⚠️ 傾斜が9度を超える斜面は避けてください。急な斜面は転倒や転倒の危険性が高くなります。転倒や転落により、椅子が損傷したり、あなたや他の人が重傷を負ったり死亡する可能性があります。9度以上傾斜した斜面では、登り・下り・横切りのいずれも車椅子を使用しないでください。
- ⚠️ 傾斜面には氷、油、水などを塗ったり、滑りやすくしたりしないでください。滑りやすい斜面は転倒や転落の原因になります。転倒や転落により、車椅子が破損したり、重傷を負ったり、死亡するおそれがあります。
- ⚠️ 車椅子の横や後ろに寄りかかって手を延ばさないでください。重心が変わって不安定な状態になり、転倒や転倒の原因になります。転倒や転落により、車椅子が破損したり、重傷を負ったり、死亡するおそれがあります。
- ⚠️ 車椅子を取り外し可能な部分で持ち上げないでください。アームレストやフットレストなどの取り外し可能なパーツを使用して車椅子を持ち上げると、転倒や制御不能に陥ることがあります。転倒や制御不能により、車椅子が損傷したり、重傷を負ったり、死亡する可能性があります。
- ⚠️ 梱包材は子供の手の届かないところに保管してください。梱包材の不適切な取り扱いや子供を監督する義務の怠慢は、窒息や重傷または死亡につながる可能性があります。
- ⚠️ 椅子やコンポーネントを極端な温度（日光、サウナ、極端な寒さなど）にさらさないでください。椅子やコンポーネントとの接触による低体温症や火傷が発生したり、コンポーネントが故障したりする可能性があります。

##### ⚠️ CAUTION ⚠️

注意: コンポーネントをフレームに取り付けるボルトやハードウェアを締めすぎないようにしてください。締めすぎは車椅子の損傷に繋がります。また、車椅子の耐久性やパフォーマンスに影響を与えます。車椅子が損傷すると、ユーザーが怪我をする可能性があります。

注: ハードウェアの締め付けに関する情報は、このマニュアルのメンテナンスの項目に記載されています。ボルトやハードウェアを適切に締める方法がわからない場合、または必要な工具が不足している場合は、車椅子の販売店にご相談ください。

### III. 通知 - 使用前に読むこと

#### G. ポジショニングベルト・ポジショニングハーネス

##### ⚠️ WARNING ⚠️

警告：ポジショニングベルトを不適切に使用すると、ユーザーがポジショニングベルトの下に滑る可能性があります。これが発生した場合、ベルトからの圧力により胸骨圧迫や窒息が発生する可能性があります。これらが発生すると、ユーザーの呼吸が妨げられ、重傷または死亡につながる可能性があります。

⚠️ ポジショニングベルトを不適切に使用すると、身体の一部が絡まり、可動性や動きが制限され、重傷を負ったり死亡する可能性があります。

Ki Mobilityは、骨盤ポジショニングベルトの使用を推奨しています。骨盤ポジショニングベルトは、車椅子から滑ったり、落下するリスクを減らすことができます。

骨盤ポジショニングベルトや前部胴体ハーネスおよびストラップなどのポジショニングベルトは、車椅子での適切なポジショニングと姿勢を支援、保持、およびサポートするように設計されています。

- ユーザーが座面から滑り、ポジショニングベルトの下に潜らないようにしてください。
- ポジショニングベルトは、ユーザーの姿勢を保つつも呼吸を制限しない程度にぴったりとフィットさせます。開いた手がベルトとユーザー間の隙間を通る程度のクリアランスが必要です。
- クッションを適切に使用すると、骨盤の安定性に貢献し、滑りを減らすことができます。
- 以下のケースではポジショニングベルトは絶対に使用しないでください。
  - a. 身体拘束用具として。
    - i. 緊急時にベルトを簡単に外せない場合。これができない場合は、姿勢を改善するための他のオプションについて、担当医やセラピスト、車椅子販売店に相談してください。
    - b. 意識を失っている、または動搖しているユーザーに対して。
    - c. 自動車の乗員拘束装置、または安全ベルトとして。ポジショニングベルトは、自動車のフレームに取り付けられているシートベルトの代わりになるようには設計されていません。急ブレーキによる慣性力で、ユーザーは前方に投げ出されます。車椅子のシートベルトはこれを防ぐことはできず、ベルトやストラップによってさらに怪我をする可能性があります。詳細については、車載時についての項目を参照してください。

#### H. 走行時について

##### ⚠️ WARNING ⚠️

警告：車椅子を、柔らかい、粗い、凹凸のある、または滑りやすい表面（氷、砂、緩い土、草、砂利、くぼみ、ひび割れ、舗装の破損など）で押したり使用したりしないでください。このような表面で使用すると、車椅子の安定性が失われ、予期せぬ転倒による転落や、制御不能に陥る可能性があります。転倒または制御不能は、車椅子の損傷、重傷または死亡につながる可能性があります。

⚠️ フロントのキャスターホイールが引っ掛かり、車椅子が急停止する原因となる可能性のある障害物や表面の変化に常に注意してください。そうしないと、車椅子が予期せず転倒による転落や、制御不能に陥る可能性があります。転倒または制御不能は、車椅子の損傷、重傷または死亡につながる可能性があります。

# III. 通知 ー 使用前に読むこと

## H. 走行時について(前ページの続き)

 走行中、車椅子が衝突する可能性のある物や障害物には常に注意を払ってください。物や障害物に衝突すると、車椅子が予期せず転倒して転落や、制御不能に陥る可能性があります。転倒または制御不能は、車椅子の損傷、重傷または死亡につながる可能性があります。また、物や障害物に衝突すると車椅子に損傷を与える可能性があります。物体や障害物に衝突した際のリスクは、速度が上がるにつれて高くなります。

 車道で車椅子を使用することは非常に危険であり、お勧めできません。車いす利用者は、歩行者の通行規則に従わなければなりません。国や自治体の法令、条例等に従い安全に走行してください。

 車椅子の安定性は、路面の傾斜によって変化します。傾いた路面は、車椅子の安定性を低下させます。これは、斜面を横切る際に特に当てはまります。坂道で車椅子に乗ると、車椅子が予期せず傾いたり、ユーザーの安定性が失われたりして、転倒したり、制御不能に陥る可能性があります。転倒または制御不能は、車椅子の損傷、重傷または死亡につながる可能性があります。

 公共の空間やプライベートエリア（横断歩道、歩道、駐車場、公園など）問わず、車椅子を使用する場合は、自動車の危険性に注意してください。

車椅子による低さをカバーするには：

- ・ 照明が不十分な場合は、車椅子や衣服に反射テープを使用してください。
- ・ 横断歩道など、優先権がある場合でも自動車の運転手があなたに気付くまで常に譲歩します。

 後方にさがる際は細心の注意を払ってください。転倒の原因となる障害物が見えない場合があります。転倒すると、車椅子が損傷したり、重傷を負ったり、死亡する可能性があります。

 Ki Mobilityは、前輪を地面から離して後輪のみでバランスを取ることを推奨しています（「ウイリー」としても知られています）。転倒や転落の可能性が非常に高く、車椅子の損傷、重傷、または死亡につながる可能性があります。この警告を無視することを選択した場合は、臨床または技術の専門家による訓練を受けていない限り、ウイリーを試みないでください。限界点を超えないように、常に健常者の助けを借りてください。

 車椅子をエスカレーターに乗せないでください。エスカレーターで車椅子を使用すると、転倒、転落、または制御不能に陥る可能性があります。転倒、転落、または制御不能は、車椅子の損傷、重傷または死亡につながる可能性があります。

 車椅子上で服を着たり脱いだりしないでください。車椅子上での脱衣は重心移動の原因になり、転倒または転落のリスクが高まります。転倒または転落すると、車椅子が損傷したり、重傷を負ったり、死亡する可能性があります。

 Ki Mobilityは、ヒールループやカフストラップなどのアクセサリーの使用をお勧めしています。ヒールループやカフストラップを適切に使用すると、足が誤ってフットプレートやフットレストから滑り落ちて、車椅子やそのコンポーネントに足が絡まったり、地面にぶつかったりするのを防ぐことができます。適切に取り付けられたヒールループやカフストラップなどの付属品なしで車椅子を使用すると、危険な状況が発生する可能性があり、回避しないと怪我をする可能性があります。

# III. 通知 – 使用前に読むこと

## H. 走行時について(前ページの続き)

車椅子乗車時に常に注意すること

- 常に先の状況まで気を配って走行してください。
- 走行する路面が水平で、障害物がないことを確認してください。
- 部屋と部屋の間の段差や隙間を解消してください。
- 転倒防止装置が装着されている場合は、それらが所定の位置にロックされていることを確認してください（転倒防止装置の適切な使用についてはセクション AAを参照してください）。
- 障害物を乗り越えるときは、両手をハンドリムに置いてください。
- 周囲の物体を押したり引いたりして車椅子で移動しないでください。
- スロープの下に落下物がないことを確認してください。
- 上り坂では、上半身を少し前に傾けて、後ろに傾かないようにします。
- 下り坂では、上半身を後ろに倒して、前に倒れないようにします。
- 補助なしで障害物を押し出そうとしないでください。
- 乗り越えようとするすべての坂道、スロープ、または縁石のカットが、ADA (Americans with Disabilities Act) ガイドラインまたはお住まいの地域の同等のアクセシビリティガイドラインに準拠していることを確認してください。

ADAガイドラインとアクセシブルなデザインの詳細については、[www.ada.gov](http://www.ada.gov)をご覧ください。

## I. 電動ユニットについて

### ⚠️ WARNING ⚠️

警告: 電動ユニットが、車椅子とそのオプション構成で使用するために、製造元によって検証および承認されていることを確認してください。未承認の外部電動ユニットを使用すると、車椅子の機械的故障や転倒の原因となる可能性があります。転倒すると、車椅子が損傷したり、重傷を負ったり、死亡する可能性があります。

⚠️ 電動ユニットは、車椅子の安定性と性能を変えます。電動ユニット使用時は、常に転倒防止装置を使用してください。さもないと、車椅子が後ろに倒れる可能性があります。後ろに倒れると、車椅子が損傷したり、重傷を負ったり、死亡する可能性があります。

⚠️ 車椅子が衝突する恐れのある物体や障害物には常に注意してください。電動ユニットは車椅子の性能を変化させ、物体や障害物に衝突した場合に予期せず転倒するリスクを高めます。予期せぬ転倒は、転落や、制御不能に陥る可能性があります。その場合、車椅子が損傷する可能性があります。物体や障害物に衝突した際に車椅子が損傷したり怪我をするリスクは、速度が上がるにつれ高くなります。

Ki Mobilityは、Ki Mobility製車椅子に電動ユニットを取り付けることを推奨していません。Ki Mobility製車椅子は、Ki Mobilityによって電動車椅子として設計またはテストされていません。Ki Mobility製車椅子に電動ユニットを追加する場合は、電動ユニットの製造元が、電動ユニットと車椅子の組み合わせが安全で効果的であることを検証および承認していることを確認してください。

# III. 通知 - 使用前に読むこと

## J. 車椅子と周囲の環境

### ⚠ CAUTION ⚠

注意：水や過度の湿気にさらされると、車椅子の金属部品の錆びや腐食、布部品の破れが発生する可能性があります。水にさらされた場合は、できるだけ早く車椅子を乾かしてください。

⚠ 車椅子をシャワー、プール、または海や川などで使用しないでください。錆びや腐食が発生し、最終的には故障します。

⚠ 車椅子を砂の中で使用しないでください。砂がホイールペアリングや可動部品に入る可能性があります。これは部品の損傷を引き起こし、最終的に車椅子が故障します。

## K. 車椅子の改造

### ⚠ WARNING ⚠

警告：このマニュアルに従って調整するか、Ki Mobility承認のオプションを追加する場合を除き、この車椅子を改造することはできません。訓練を受けたKi Mobilityアソシエイト以外によるフレームの穴あけや切断を伴う承認されたオプションはありません。あなたの車椅子は、厳格な設計管理の下で設計および製造されました。このプロセスの不可欠な部分は、さまざまなコンポーネントが正しく連携することの保証です。それらは品質を保証するためにさまざまな基準でテストされており、連携することが承認されています。Ki Mobilityが提供していないアクセサリーやコンポーネントを追加する前に、車椅子販売店またはユーキ・トレーディングに連絡してください。承認されていない変更またはオプションは、転倒につながり、重傷または死亡につながる可能性があります。

## L. 車椅子の安定性

### ⚠ WARNING ⚠

警告：車椅子の安定性は、柔らかい、粗い、凹凸のある、または滑りやすい表面（氷、砂、緩い土、草、砂利、くぼみ、ひび割れ、舗装の破損など）で使用することにより変化します。このような表面で使用すると、車椅子の安定性が失われ、予期せぬ転倒による転落や、制御不能に陥る可能性があります。転倒または制御不能は、車椅子の損傷、重傷または死亡につながる可能性があります。

⚠ 車椅子上で体勢を変えたり、車椅子に荷物を積むなどで重量を追加したり、物を運んだり手を伸ばしたりすると、車椅子の安定性に影響を与える可能性があります。転倒または転落のリスクが高まります。転倒または転落により、車椅子が損傷したり、重傷を負ったり、死亡する可能性があります。

⚠ 車椅子上で服を着たり脱いだりしないでください。車椅子での脱衣は体重移動の要因になり、転倒や転落のリスクが高まります。転倒または転落により、車椅子が損傷したり、重傷を負ったり、死亡する可能性があります。

⚠ Ki Mobilityは、前輪を地面から離して後輪のみでバランスを取ることを推奨しています（「ウイリー」としても知られています）。転倒や転落の可能性が非常に高く、車椅子の損傷、重傷、または死亡につながる可能性があります。この警告を無視することを選択した場合は、臨床または技術の専門家による訓練を受けていない限り、ウイリーを試みないでください。限界点を超えないように、常に健常者の助けを借りてください。

### III. 通知 - 使用前に読むこと

#### L. 車椅子の安定性(前ページの続き)

##### ⚠️ WARNING ⚠️

警告：車椅子に座面角度の傾斜を変更するシステムが装備されている場合は、使用前に角度変更の範囲全体で安定していることを確認してください。車椅子が傾斜角度の範囲全体で安定していない場合、転倒または転落の恐れがあります。転倒または転落により、車椅子が損傷したり、重傷を負ったり、死亡する可能性があります。

##### 転倒のリスクを最小限に抑えるために

- ・転倒防止装置が正しい位置にあることを確認します(転倒防止装置については、セクションNを参照します)。
- ・傾斜を登る際は前傾します。
- ・傾斜を下る際は後傾します。
- ・介助者の支援を受けます。
- ・車椅子のセットアップは、認定された技術者のみが実施します。
- ・付属のアクセサリーを常に使用します。
- ・体重や座り方に変化があった場合、認定技術者が車椅子を調整します。
- ・必要に応じて、常に転倒防止を使用します(転倒防止装置については該当セクションを参照)。

車椅子の適切な安定性を確保するには、重心と車椅子のサポートのベースがバランスと能力に對して正しいことを確認する必要があります。多くの要因がこれらの2つの要素に影響を与える可能性があります。

- ・座面の高さ
- ・座面の奥行
- ・背の角度
- ・座面の角度
- ・後輪のサイズと位置
- ・前輪のサイズと位置
- ・シーティングアイテム類の構成
- ・ティルト角度(該当する場合)

車椅子の安定性に悪影響を与える可能性のある行動はさまざまです。車椅子の安定性を維持しながら安全に何ができるかを判断するには、担当医やセラピストに相談する必要があります。

#### M. アフターマーケット製シーティング製品

##### ⚠️ WARNING ⚠️

警告：車椅子にクッションを取り付けると、車椅子の重心に影響を与える可能性があります。重心が変化すると、車椅子の安定性に影響を及ぼし、車椅子の転倒や転落により、重傷を負う可能性があります。クッションを追加した後、十分な安定性を提供するために車椅子の変更が必要かどうかを確認するために、車椅子の使用説明書を常に確認してください。



皮膚の状態は、この製品の使用を含む、日常生活や病状など多くの側面によって影響を受けます。臨床医によって確立されたスキンケアに必ず従ってください。この製品の消費者は、臨床医の指示に従って、皮膚の変化を定期的に検査する必要があります。さもないと、重傷を負ったり死する可能性があります。

##### 適切なシーティング製品の選択

シーティングおよびポジショニング製品を選択する前に、車椅子シーティングおよびポジショニングのトレーニングを受けた資格のある臨床医（医師またはセラピスト）に相談してください。これにより、ニーズに合った適切な製品を受け取ることができます。

## IV. 車椅子の使い方と構成

### A. 上り階段

#### ⚠ WARNING ⚠

警告：以下の手順で訓練を受け、あなたと車椅子の体重を支えることが可能な少なくとも2人の助けなしに、階段を上らないでください。階段を上るのは困難な場合があり、転倒して車椅子が損傷したり、ユーザー や介助者が重傷を負ったり死亡したりする可能性があります。

注：階段を上るときは、ユーザーは下向き階段の段差を見ている必要があります。

1. 階段を上るときは、転倒防止装置を取り外すか、上に向けます。転倒防止装置を取り外した後、または上向きに回した後は、必ず再取り付けするか、転倒防止装置を下向きに回してください。階段を上るときに転倒防止装置を下向きのままにしておくと、転倒や破損の恐れがあります。転倒防止装置が曲がったり折れたりすると、車椅子が後方に転倒するのを防ぐことができなくなります。後方に転倒すると、車椅子が損傷したり、重傷を負ったり、死亡する可能性があります。
2. 介助者のうち1人をユーザーの後ろに、1人を前に配置します。前後の人とは車椅子の取り外しできない部分を握らなければなりません。
3. ユーザーの後ろの人が車椅子を後ろに傾け、両方の介助者が一緒に持ち上げます。同じタイミングで一歩ずつ踏み出してください。

### B. 下り階段

#### ⚠ WARNING ⚠

警告：以下の手順で訓練を受け、あなたと車椅子の体重を支えることが可能な少なくとも2人の助けなしに、階段を下らないでください。階段を下るのは困難な場合があり、転倒して車椅子が損傷したり、ユーザー や介助者が重傷を負ったり死亡したりする可能性があります。

注：階段を下るとき、ユーザーは上を見上げる必要があります。

1. 階段を降りるときは、転倒防止装置を取り外すか、上に向けます。アンチチップを取り外した後、または上位置に回した後は、必ず再取り付けするか、アンチチップを下位置に回してください。階段を降りるときに転倒防止装置を下の位置に置いたままにすると、転倒したり壊れたりする可能性があります。転倒防止装置が曲がったり折れたりしても、車椅子が後方に転倒するのを防ぐことはできなくなります。後ろに倒すと、椅子が損傷したり、重傷を負ったり、死亡する可能性があります。
2. 介助者のうち1人をユーザーの後ろに、1人を前に配置します。前後の人とは車椅子の取り外しできない部分を握らなければなりません。
3. ユーザーの後ろ側の人が車椅子を後ろに傾け、後輪を階段の段差に乗せながら一段ずつゆっくりと降ろします。

## IV. 車椅子の使い方と構成

### C. 移乗

#### ⚠ WARNING ⚠

警告：訓練を受け、自分一人で、または介助者と一緒に移乗ができるることを確認してください。バランスと敏捷性が必要なため、自分一人で移乗するのは危険です。移乗している瞬間、車椅子に座っていない状態の際は、移乗動作すべてのタイミングに注意点があることに留意してください。移乗を適切に行わないと、転倒し重傷を負ったり死亡する可能性があります。

注：移乗する前に、移乗元と移乗先2つの座面間のギャップを減らすためにあらゆる注意を払う必要があります。

1. ブレーキをかけ、後輪をロックします。
2. キャスターを前方に回転させ、ホイールベースを伸ばした状態にします。
3. フットサポートを取り外すか、スイングアウトします。
4. 一人で移乗ができない場合は、誰かに手伝ってもらいます。

### D. 車載装置の使用時

#### ⚠ WARNING ⚠

警告：車載オプションが装備されていない限り、車椅子を自動車の座席として使用しないでください。適切なシートとショルダーベルトを備えた自動車のシートに車椅子から乗り換えるのが常に最も安全です。車いすを自動車の座席として使用すると、車載用のオプションが装備されていない場合、重傷を負ったり死亡する可能性があります。

車載オプションを備えた車椅子は、『RESNA WC-4、セクション19：自動車の座席として使用される車椅子およびISO 7176-19車椅子-パート19：自動車の座席として使用するための車輪付き移動装置』でテストされ、合格しています。RESNAおよびISO規格は、自動車で使用するための座席としての車椅子の構造的完全性をテストするように設計されています。

これらの規格は、車椅子タイダWNおよび乗員拘束システム（WTORS）との互換性をもつするようにも設計されています。

すべての車椅子のオプション構成が車載オプションと互換性があるわけではありません。Ki Mobilityはオプション構成を管理し、互換性のある構成でない場合は車椅子を提供しません。車椅子を受け取った後に変更を加える場合は、車椅子販売店またはユーキ・トレーディングに連絡し、車椅子を自動車の座席として引き続き使用することが適切かどうかを確認する必要があります。

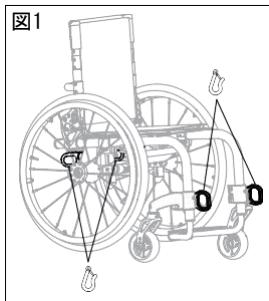
アフターマーケットのシーティングアクセサリーは、車載オプションの一部として設計およびテストされた元のシートおよびバックサポートに取って代わった可能性があります。車椅子販売店は、提供した車椅子の座席が純正なのか、交換用のアフターマーケット製品なのかをユーザーに伝えてください。車載オプションを備えた車椅子を自動車の座席として使用する前に、このセクションに記載されている基準にすべて準拠している、車椅子フレーム、座席、車椅子固定および乗員拘束システムの完全なシステム、および適切に装備された自動車を設置する必要があります。

車椅子を自動車の座席として使用する場合は、常に次の指示に従う必要があります。

## IV. 車椅子の使い方と構成

### D. 車載装置の使用時(前ページの続き)

- ユーザーは前向きの姿勢である必要があります。
- ユーザーと携行するすべてのアイテムの合計重量が125 lbs (57kg) を超えてはなりません。
- バックパックやポーチは取り外し、自動車内で別々に固定する必要があります。事故が発生した場合、これらのアイテムは危険な発射体となり、あなたや他の自動車の乗員を傷つけたり殺したりする可能性があります。
- ユーザーは、『RESNA WC-4、セクション18：自動車またはISO 10542-1技術システムおよび障害者用補助装置で使用するための車椅子固定および乗員拘束システム-車椅子の固定および乗員拘束システム-パート1：すべてのシステムの要件とテスト方法』に準拠した車椅子固定および乗員拘束システムを使用する必要があります。
- 車椅子タイダウント装置の製造元の指示および、RESNAWC-4、セクション18、またはISO 10542-1、-パート1に従い、車載オプション(図1)を使用して、車椅子タイダウントを車椅子の4つの固定ポイント(前部2つ、後部2つ)に取り付けます。



- 乗員拘束装置の製造元の指示およびRESNAWC-4、セクション18またはISO 10542-1、パート1に従って、乗員拘束装置を取り付けます。
- ラップベルト、チェストストラップ、ショルダーハーネス、その他のポジショニングストラップシステム、またはポジショニングアクセサリーの使用は、『RESNA WC-4セクション18またはISO10542-1、パート1』に準拠し、メーカーによってそのようなマークがない限り、使用したり、乗員の拘束として信頼したりしないでください。
- ヘッドレスト、ラテラルサポート、またはその他ポジショニングアクセサリーの使用は、『RESNA WC-4セクション18、またはISO 10542-1パート1、またはRESNAWC-4セクション20：自動車で使用するための車椅子座席システムまたはISO 16840-4車椅子座席-パート4：自動車で使用するための座席システム』に従ってメーカーによってそのようにマークされていない限り、乗員拘束として使用したり、信頼したりしないでください。
- 取り付けて調整した後、元の機器の背もたれの上部は、肩の上部から3インチ(7.62cm)以内にある必要があります。
- アフターマーケットのシーティングアイテムは『RESNA WC-4、セクション20、またはISO16840-4-パート4』に準拠するようにテストする必要があります。
- シーティングアイテムの製造元の指示および『RESNA WC-4、セクション20またはISO16840-4-パート4』に従って、座席を車椅子フレームに取り付けます。
- トレイ、酸素ボンベホルダー、酸素ボンベ、IVポール、バックパック、ポーチ、およびKi Mobility製ではないアイテムなどの社外アクセサリーは、取り外して、自動車内で個別に固定する必要があります。事故が発生した場合、これらのアイテムは危険な発射体になり、あなたや他の自動車の乗員を傷つけたり殺したりする可能性があります。
- 車椅子が事故に巻き込まれた場合は、目に見えない金属疲労や損傷を受けている可能性があるため、使用を継続しないでください。

## IV. 車椅子の使い方と構成

### D. 車載装置の使用時(前ページの続き)

#### ⚠ WARNING ⚠

警告：自動車に乗っている間、椅子に一時的に取り付けられているアイテムをすべて取り外して固定します。ペントレイ、バッテリートレイ、または酸素ボンベホルダーに取り付けたまま、自動車内で適切に個別に固定しない場合、事故の際にこれらのアイテムが危険な発射体になる可能性があります。さらに、酸素ボンベには、燃焼を激しく加速する高圧ガスが含まれています。これらの要因は、ユーザーや車両内の他の人の重傷または死亡につながる可能性があります。

- この車椅子を自動車の座席として使用する場合は、ペントレイ、バッテリートレイ、または酸素ボンベホルダーに取り付けられているアイテムをすべて取り外し、個別に適切に固定する必要があります。
- 車椅子に酸素ボンベホルダーが装備されている場合は、車椅子を自動車の座席として使用しないでください。

注：RESNAやISO規格のコピー入手するには、以下の団体に連絡してください。

#### RESNA

[www.resna.org](http://www.resna.org)

#### ANSI/RESNA Standards:

RESNA WC-4, Section 18:

Wheelchair tie-down and occupant restraint systems for use in motor vehicles.

RESNA WC-4, Section 19:

Wheelchairs used as seats in motor vehicles.

RESNA WC-4, Section 20:

Wheelchair seating systems for use in motor vehicles.

#### International Organization for Standardization (ISO)

[www.iso.org](http://www.iso.org)

#### ISO Standards:

ISO 10542-1 Technical systems and aids for disabled or handicapped persons -- Wheelchair tie-down and occupant-restraint systems -- Part 1:

Requirements and test methods for all systems.

ISO 16840-4 Wheelchair seating – Part 4:

Seating systems for use in motor vehicles.

ISO 7176-19 Wheelchairs – Part 19:

Wheeled mobility devices for use as seats in motor vehicles.

## IV. 車椅子の使い方と構成

### E. クッションの使用時

#### ⚠️ WARNING ⚠️

警告：適切な車椅子用クッションなしで長時間座ることは避けてください。適切な車椅子用クッションなしで長時間座っていると、褥瘡を引き起こし、深刻な感染症や死に至る可能性があります。

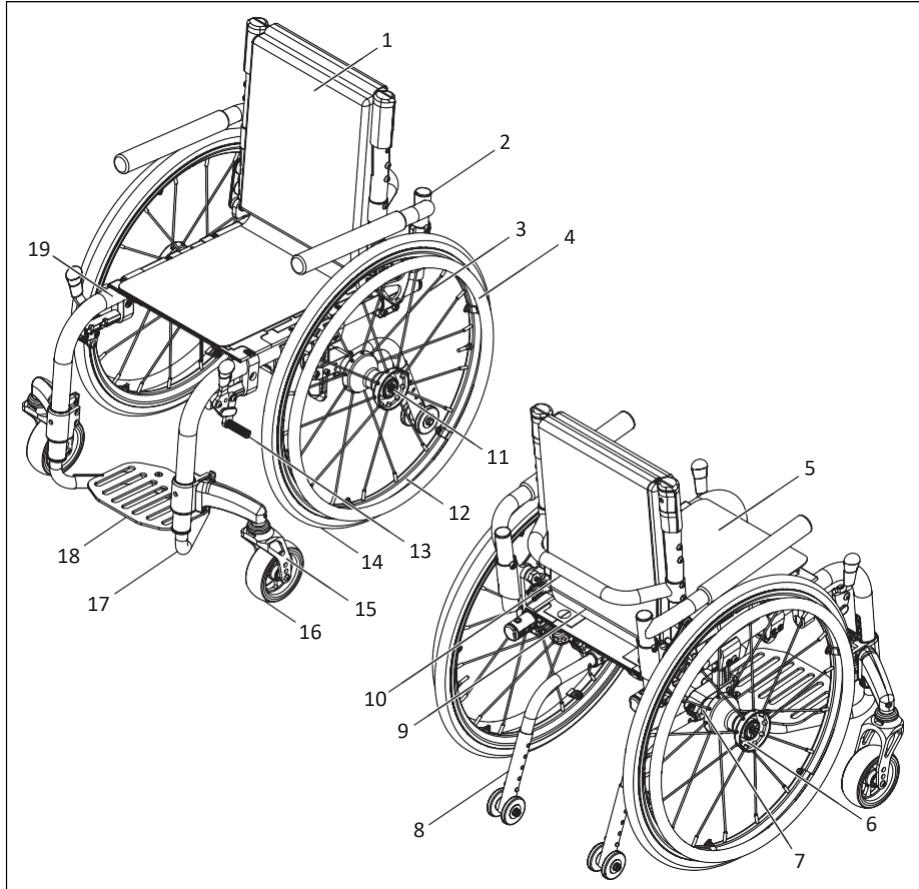
⚠️ 使用または移動する前にクッションを固定してください。クッションを固定しないと、使用中または移動中にクッションが滑り落ちて、落下したり、制御できなくなったりする可能性があります。転倒したり、コントロールを失ったりすると、椅子が損傷したり、あなたや他の人が重傷を負ったり死亡したりする可能性があります。

- a. この車椅子は、適切な車椅子クッションと一緒に使用するように設計されています。
- b. 標準のスリングシートには、フックとループの自動固定ストリップが付いています。使用的クッションには、クッションが下から滑り落ちないように、シートスリングのループにかみ合うフックタイプの留め具が必要です。車椅子に乗り換えた後座ったりする前に、クッションがしっかりと取り付けられていることを確認してください。
- c. 標準のスリングシートが車椅子に付属していない場合があります。元のスリングシートからアフターマーケット品に交換されているかどうかは、車椅子販売店に確認してください。その場合は、アフターマーケットメーカーが提供する使用説明書に必ず従ってください。

## IV. 車椅子の使い方と構成

### F. クリックと構成部品

- 「点検と手入れ」のセクションにある情報を参照して、車椅子を検査およびメンテナンスします。
- 問題を発見した場合は、すぐに車椅子販売店に連絡してください。



- |                    |                  |
|--------------------|------------------|
| 1. 背シート            | 11. クイックリリースアクスル |
| 2. スイングアウト式アームサポート | 12. アルミニウムホイールリム |
| 3. スpoke           | 13. ブレーキ         |
| 4. ハンドリム           | 14. ホイール         |
| 5. 座シート            | 15. キャスター/フォーク   |
| 6. リアホイールハブ        | 16. キャスター        |
| 7. キャンバーチューブ       | 17. フットサポート      |
| 8. 転倒防止装置          | 18. フットプレート      |
| 9. リリースケーブル        | 19. シートフレーム      |
| 10. リジッドバー         |                  |

## IV. 車椅子の使い方と構成

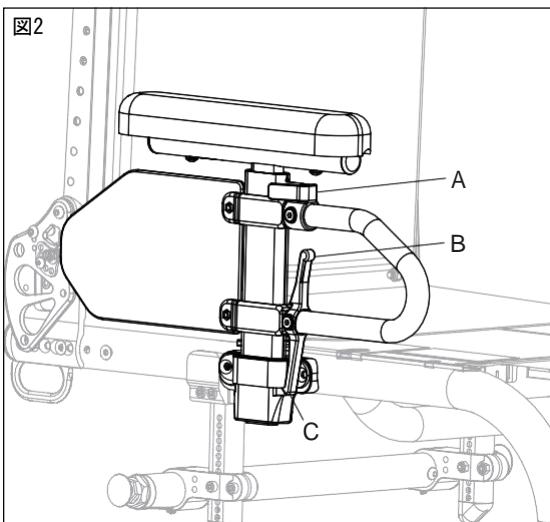
### G. 高さ調整式T型アームサポート

#### ⚠ WARNING ⚠

警告：このアームサポートは回転方向の動きに対するロックのみを提供し、下向きの力のみに耐えるように設計されています。引き上げられると外れるため、車椅子を持ち上げたり、他の方法で取り扱う用途で使用することはできません。上記の指示に従わないと、アームサポートが車椅子から外れ、転倒または制御不能になり、重傷または死亡事故を引き起こす可能性があります。

#### アームサポートの使い方

1. 取り付け
  - a. 外側のアームポストを車椅子フレームに取り付けられたレシーバーにスライドさせます。
  - b. アームサポートは自動的に所定の位置にロックされます。ロックレバーが下図のようになっていることを確認してください(図2:B)。
2. 高さ調整
  - a. リリースレバーを開きます(図2:A)。
  - b. アームサポートパッドを希望の高さまで上下にスライドさせます。
  - c. レバーをアームポストに対してロック位置に戻します。
  - d. パッドがしっかりと固定されるまで、アームパッドを押し下げます。ロックレバーが下図のようになっていることを確認してください(図2:A)。
3. 取り外し
  - a. リリースレバー(図2:B)を握り、アームサポートを引き上げて取り外します。



## IV. 車椅子の使い方と構成

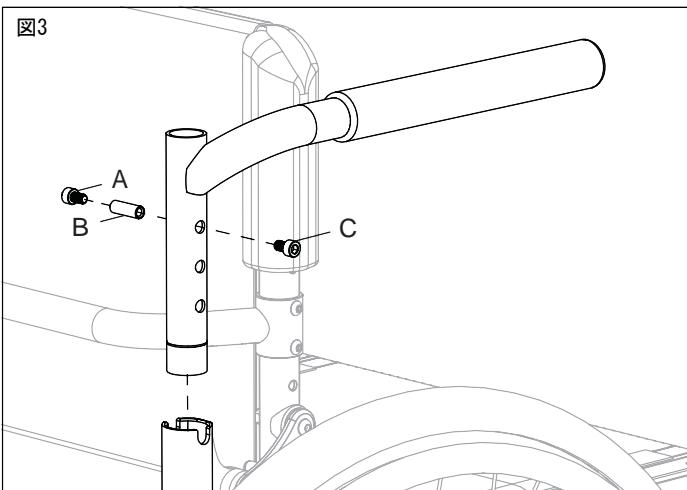
### H. スイングアウト式アームサポート

#### ⚠ WARNING ⚠

警告：このアームサポートは回転に対するロックのみを提供し、下向きの力のみに耐えるように設計されています。引き上げると完全に外れるため、車椅子を持ち上げたり、本来の目的外の用途で使用することはできません。上記の指示に従わない場合、アームサポートが車椅子から外れ、転倒または制御不能になり、重傷を負ったり死亡事故を引き起こす可能性があります。

#### アームサポートの使い方

1. 取り付け（図3）
  - a. フレームの背面に取り付けられているレシーバーのチューブにアームサポートを差し込みます。
2. アームのスイング
  - a. レシーバーの溝からレシーバーボルトが外れるようアームサポートを少し持ち上げ、椅子から離れるように回します。
3. アームサポートの取り外し
  - b. アームサポートをレシーバーからまっすぐ持ち上げます。



# IV. 車椅子の使い方と構成

## I. 高さ調整式小児用T型アームサポート

### ⚠ WARNING ⚠

警告：このアームサポートは回転方向の動きに対するロックのみを提供し、下向きの力のみに耐えるように設計されています。引き上げられると外れるため、車椅子を持ち上げたり、他の方法で取り扱う用途で使用することはできません。上記の指示に従わないと、アームサポートが車椅子から外れ、転倒または制御不能になり、重傷または死亡事故を引き起こす可能性があります。

### アームサポートの使い方

1. 取り付け(図4)
  - a. アームサポートをサイドフレームのレシーバーにスライドさせます。レバーのピンがレシーバーにかみ合っていることを確認します。
2. 取り外し
  - a. レバー(図4:A)をサイドガードパネルに向かって押し込み、ピンをレシーバーから外します。
  - b. アームサポートをレシーバーからまっすぐ引き抜きます。
3. 高さ調整
  - a. アームサポートを車椅子から取り外します。
  - b. サイドガードから2本の6mmネジを取り外します(図5:A)。
  - c. ネジ(図5:B)をサイドガードポストトップからサイドガードポストを通して取り外します。完全に抜くことはせず、ネジはレバーアセンブリに留まった状態にします。反対側も同様に実施します。
  - d. ポストトップとサイドガードポストのレバーアセンブリを希望の高さにリセットします。ネジを締め直します(図5:B)。反対側も同様に実施します。
  - e. サイドガードを希望の位置に配置し、2本の6mmネジ(図5:A)でサイドガードを所定の位置に固定します。2本の6mmネジを締めます。反対側も同様に実施します。
  - f. アームサポートをレシーバーに取り付けます(図4)。

図4

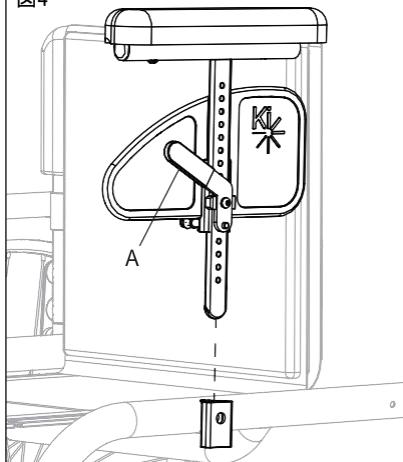
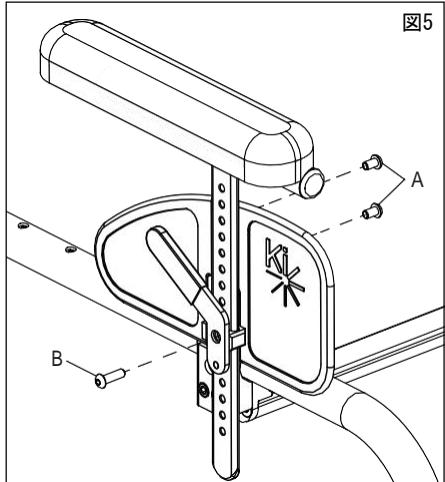


図5



## IV. 車椅子の使い方と構成

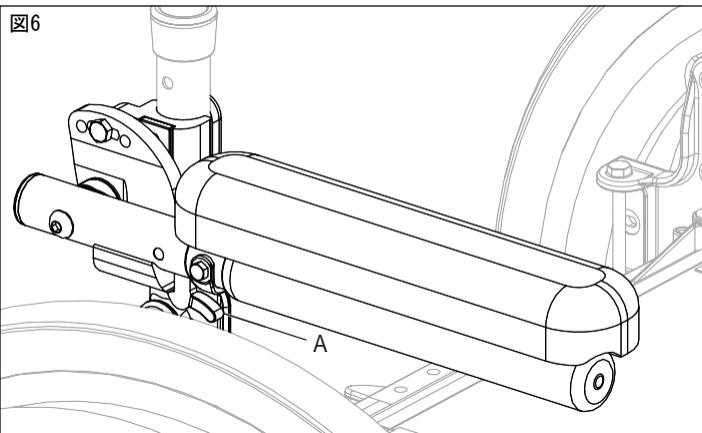
### J. 角度・長さ段階調整式フリップアップアームサポート

#### ⚠ WARNING ⚠

警告：このアームサポートは回転方向の動きに対するロックのみを提供し、下向きの力のみに耐えるよう設計されています。引き上げるとアームサポートのロックが外れる恐れがあるため、車椅子を持ち上げたり、他の方法で取り扱う用途で使用することはできません。上記の指示に従わないと、アームサポートが誤って車椅子から外れ、転倒または制御不能になり、重傷または死亡事故を引き起こす可能性があります。

#### アームサポートの使い方

1. 跳ね上げ
  - a. リリースレバー（図8 : A）を上に押して、アームサポートのロックを解除します。
  - b. アームサポートを上向きにスイングします。
2. 跳ね上げたアームサポートを戻す
  - a. カチッとロックされるまでアームサポートを戻します。



## IV. 車椅子の使い方と構成

### K. リアホイール

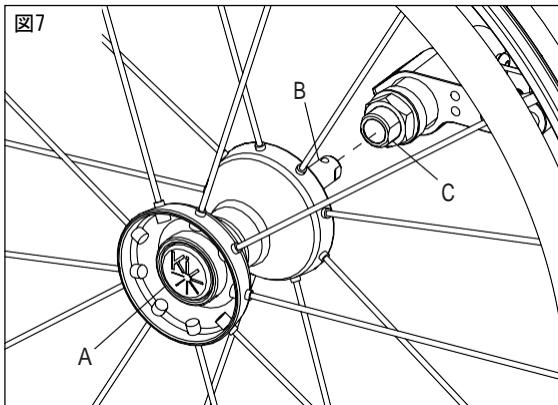
#### ⚠ WARNING ⚠

警告：車椅子の操作前に、クイックリリースのプッシュボタンが完全に伸び、内側のロックボールが完全に飛び出していることを確認してください。そうしないと、車輪が脱落し、転倒や転倒の原因となり、重傷を負ったり死亡する恐れがあります。

#### リアホイールの取り扱い

##### 1. 取り付け(図7)

- a. アクスルのクイックリリースボタンを押し、ロッキングボールを後退させます。リリースボタンの伸びきった位置と押し下げた位置の違い、アクスルのもう一方の端にあるロッキングボールへの影響に注意してください。
- b. アクスルが外れている場合は、ホイールベアリングに挿入します。
- c. 再度クイックリリースボタンを押し、アクスルをアクスルスリーブにスライドさせます。
- d. ボタンを放し、アクスルをスリーブにロックします。リリースボタンが完全に伸びておらず、ボタンをリリースした後でもロックボールがロック位置に移動しない場合は、アクスルの長さを調整する必要があります。
- e. ホイールが合わない場合は、反対側に取り付けてみてください。



##### 2. ホイールの取り外し

- a. アクスルの外側にあるボタンを押し込みます。
- b. ボタンを押したまま、ホイールごとアクスルを引き抜きます。

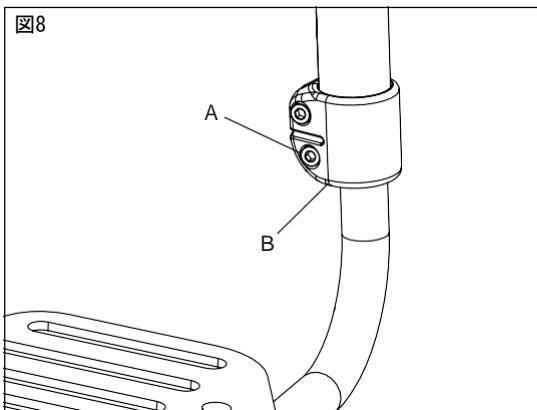
## IV. 車椅子の使い方と構成

### L. フットサポートの調整

#### フットサポートの高さ調整

注: フットサポートの高さは医師やセラピスト、車椅子販売店と相談し適切な高さを選ぶ必要があります。

- フレームの両側で、下部の3mmネジを緩めます(図8:A)。
- フットサポートチューブをサイドフレーム内の希望の高さまで上下に調整します。フットサポートを交換する場合、このステップでフットサポートチューブを完全に抜きます。
- 両側の高さを揃え、両側の3mmネジを4.5N/mに締め直して固定します。

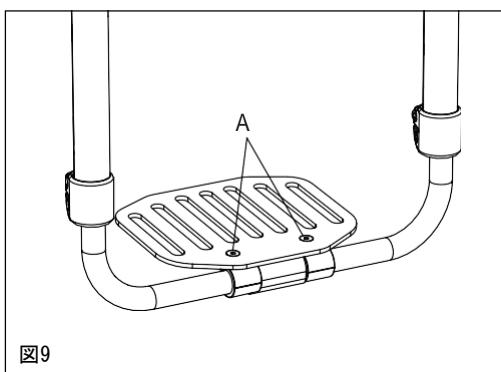


### M. 角度調整式フットプレート

#### フットサポートの使い方

##### 1. 角度調整

- 4mm六角レンチを使用し、フットサポート下部の2本のネジ(図9:A)を緩めます。
- フットプレートを希望の角度に傾け、2本のネジを締め直して固定します。



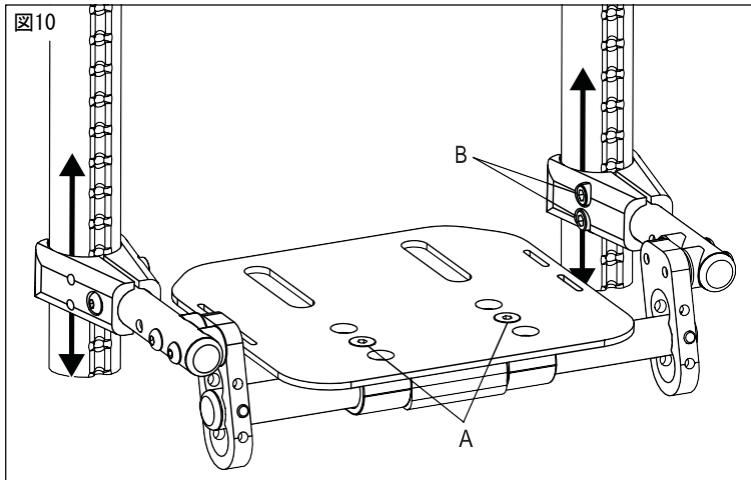
## IV. 車椅子の使い方と構成

### N. 角度調整式フットプレートハイマウント後方フリップアップ

#### フットサポートの使い方

1. フットプレートの角度調整
  - a. センタークランプの2本の6mmネジを取り外さない程度に緩めます。
  - b. 緩むと、クランプはフットサポート延長チューブの周りを回転します。クランプを希望の角度に調整します。
  - c. 2本の6mmネジを9.0N/mで締め、固定します。
2. フットプレートの位置調整
  - a. フットプレートから2本のM6ネジ(図10:A)を取り外します。クランプの下側からナットが落ちる場合があるので無くさないよう注意してください。
  - b. フットプレートを動かし、希望の位置に一番近い穴にネジを挿入します。
  - c. クランプの下のスロットにナットをはめ込み、ネジを締めて固定します。
3. フットプレートの高さ調整
  - a. フットプレートクランプから両方の6mmネジ(図10:B)を少し緩めます。反対側も同様に実施します。
  - b. これで、フットプレートアセンブリ全体をフレームに沿って上下にスライドさせることができます。フットプレートを希望の高さに動かします。
  - c. 6mmネジ(図10:B)を両側で1本ずつ少し締めます。固定したら、6mmネジを4本とも締めます(図10:B)。不均等な締め付けにならないよう、各ネジを順に少しづつ締めます。

注：ネジを不均等に締めると、クランプ内のネジ山が損傷する可能性があります。



## IV. 車椅子の使い方と構成

### N. 角度調整式フットプレートハイマウント後方フリップアップ(前ページの続き)

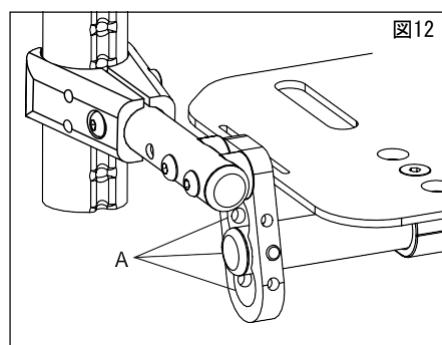
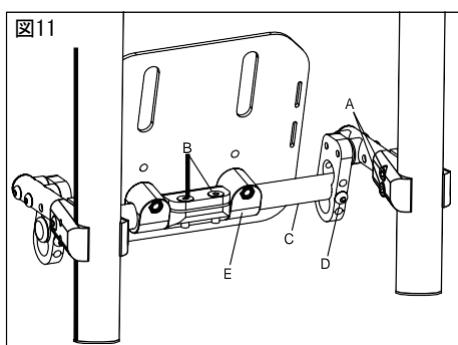
4. フットサポートの取り外し
  - a. フットサポートフレームクランプの両側から2本の6mmネジ（図11：A）を取り外します。
  - b. これで、フットサポートアセンブリ全体を取り外すことができます。
5. フットサポートの交換
  - a. センタークランプの2本の6mmネジ（図11：B）を緩めます。
  - b. チューブ（図11：C）をセンタークランプから引き出します。
  - c. マウントブラケットから2本の6mmネジ（図11：D）を取り外します。
  - d. チューブ（図11：C）をマウントブラケットから引き出します。
  - e. チューブ（図11：C）を成長対応キットの新しいチューブの1本と交換します。
  - f. 反対側で手順a～eを繰り返します。
  - g. 6mmネジ（図11：D）をマウントブラケットとチューブ（図11：C）に再度挿入します。締め直したら反対側も同様に実施し、両側で同じ穴を使用するようにします。

注：3箇所の取付可能な位置があります（図12：A）。希望するフットサポートの高さに応じた最適な位置を選択してください。

- h. チューブ（図11：C）を、ピボットブラケット（図11：E）に通してセンタークランプに挿入します。反対側も同様に実施します。
- i. フロントフレームにクランプを配置して、フットサポートアセンブリ全体をフロントフレームの希望する高さ置に取り付けます。
- j. 2本の6mmネジ（図11：A）を両側のクランプに取り付けます。
- k. 6mmネジ（図10：B）を両側で1本ずつ少し締めます。固定したら、6mmネジを4本とも締めます（図10：B）。不均等な締め付けにならないよう、各ネジを順に少しずつ締めます。

注：ネジを不均等に締めると、クランプ内のネジ山が損傷する可能性があります。

- l. フットプレートの角度を調整するには、フットサポート延長チューブの周りでセンタークランプを回転させます。
- m. 2本の6mmネジを9.0N/mで締め、固定します。



## IV. 車椅子の使い方と構成

### 0. ブレーキ

#### ⚠ WARNING ⚠

警告：タイヤの空気圧が不足している、または摩耗していると、ブレーキが正しく機能しなくなる可能性があります。ブレーキが適切に機能しないと、制御が失われたり転倒したりして、重傷を負ったり死亡する可能性があります。

#### ブレーキの調整

注：ブレーキのネジ類は、一度に一気に緩めたり締めたりせず、2本のボルトを交互に少しづつ緩めたり締めたりしてください。これにより、片側のみの締め過ぎを防ぎ、ネジ山の破損や取り外しが困難になるのを防ぎます。

1. 5mm六角レンチを使用し、クランプの片側のネジを少し(1回転未満)回します。
2. もう片側のネジで手順1を繰り返して、フレームのクランプを調整できるようにします。
3. ブレーキがしっかりとタイヤを押さえ、ホイールが動かない位置にくるようフレームに沿ってクランプを調整します。図13を参照してください。
4. ネジを締め直します。
5. 常に平らな水平面で新しいブレーキの位置をテストします。ブレーキがかかったら、ホイールが滑ったり動いたりしてはいけません。ブレーキが正しく取り付けられない場合は、再度調整してください。図14を参照してください。

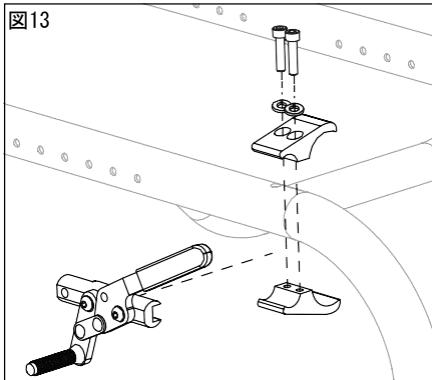


図13

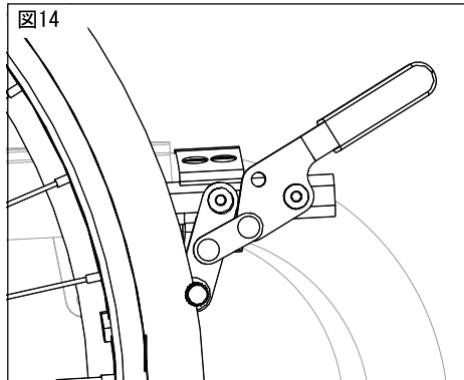
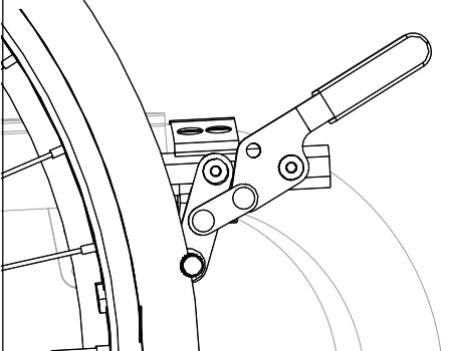
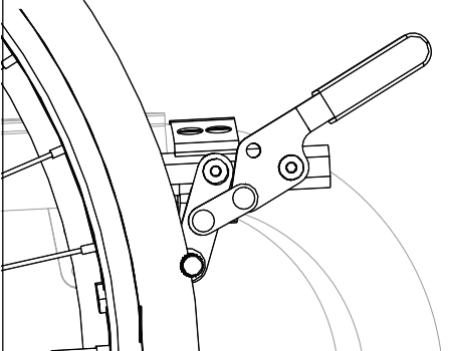


図14



## IV. 車椅子の使い方と構成

### P. 転倒防止装置

#### ⚠ WARNING ⚠

警告：障害物等との干渉の危険がない場合は、常に転倒防止装置を下向きにしてください。セラピストや車椅子販売店に、転倒防止装置が正しい位置に取り付けられていることを確認してもらいます。彼らは、車椅子を転倒防止装置に傾けて戻し、車椅子の後方への回転が適切に制限されていることをテストすることにより確認することができます。転倒防止装置を取り付けていても、重心位置（COG）と車輪が地面に接触する点とが垂直に整列する位置まで車椅子が後ろに倒れる場合、車椅子は不安定になり、転倒する可能性があります。転倒すると、車椅子が損傷したり、ユーザーや周囲の人が重傷を負ったり、死亡する可能性があります。

⚠ 新規ユーザー、経験豊富な車椅子ユーザーに関わらず、新しい車椅子に乗り替えたり、現在の車椅子の構成を調整したりする場合は、常に転倒防止装置を使用する必要があります。ユーザーの身体能力に変化がある場合も、転倒防止装置を使用する必要があります。ユーザーの身体能力や車椅子に変化があると、後ろに転倒するリスクが高まります。後ろに倒れると、車椅子が損傷したり、重傷を負ったり、死亡する可能性があります。新しい車椅子または調整された車椅子に適応するまでは、常に転倒防止装置を使用する必要があります。

⚠ 縁石、障害物、階段を上り下りするときは、転倒防止装置を取り外すか、上に向けます。縁石、障害物、階段を上り下りするときに、転倒防止装置が下向きのままになると、曲がったり壊れたりする可能性があります。転倒防止装置が曲がったり折れたりすると、車椅子が後方に転倒するのを防ぐことはできなくなります。後ろに倒れると、車椅子が損傷したり、ユーザーや周囲の人が重傷を負ったり、死亡する可能性があります。

⚠ 柔らかい路面（砂、緩い土、草、砂利を含むがこれらに限定されない）で車椅子を使用し、地面の傾きやうねり等があると、転倒防止装置の効果が失われ、車椅子が後方に転倒する可能性があります。後ろに倒れると、車椅子が損傷したり、ユーザーや周囲の人が重傷を負ったり、死亡する可能性があります。

⚠ Ki Mobilityは、車椅子に2つの転倒防止装置を使用することをお勧めします。転倒防止装置が1つだけだと、後方に転倒するリスクが高まります。後ろに倒れると、車椅子が損傷したり、ユーザーや周囲の人が重傷を負ったり、死亡する可能性があります。

Ki Mobilityは、車椅子に転倒防止装置を使用することをお勧めしています。転倒防止装置は、車椅子が後ろに転倒するのを防ぐのに役立ちます。適切に調整すると、後方安定性が大幅に向 上します。ただし、転倒防止装置の使用は、車椅子が転倒しないことを保証するものではありません。転倒防止装置を取り外した後、または上位置に回した後は、必ず再取り付けするか、下向きに回してください。

転倒防止装置は、ユーザーの体重を長時間支えることを想定したものではありません。

転倒防止の設定が短すぎると、車椅子が後方に転倒するのを防ぐことができません。

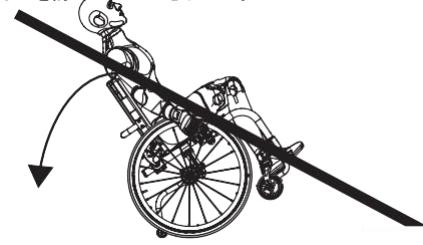
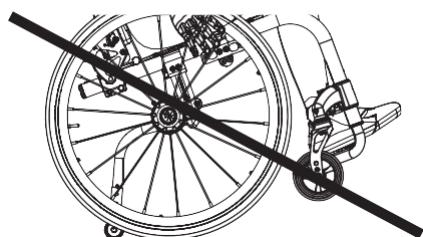


図16

## IV. 車椅子の使い方と構成

### P. 転倒防止装置(前ページの続き)

#### スタンダード転倒防止装置の取り付け(図16)

1. 後部の転倒防止リリースピン(図16:A)を、両方のリリースピンが引っ込むまで押します。
2. キャンバーチューブに取り付けられたレシーバーに転倒防止チューブを挿入します。
3. 転倒防止装置を下に向け、リリースピンがレシーバーの取り付け穴にはまるまで位置を調整します。
4. 反対側も同様に実施します。

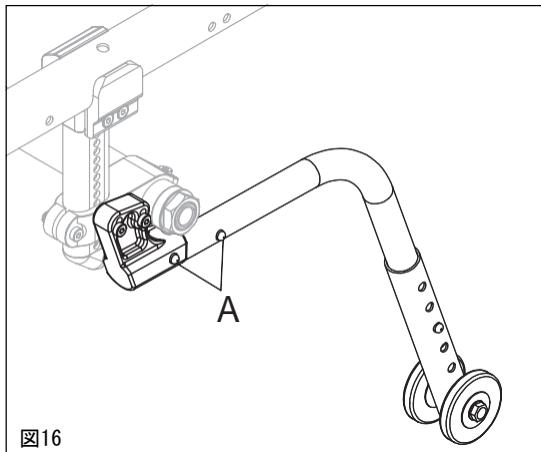


図16

#### 高さ調整(図17)

1. 転倒防止装置のホイールリリースピンを押し、リリースピン(図17:A)を内側に引き込みます。
2. 転倒防止装置を、ピンと他の穴の位置が合うよう上下させます。
3. 穴からピンを出します。
4. 反対側も同様に実施します。左右の高さを合わせます。

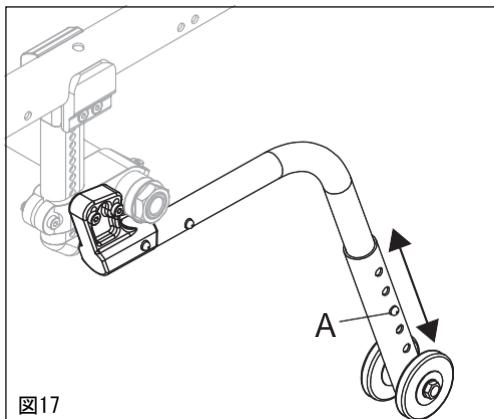


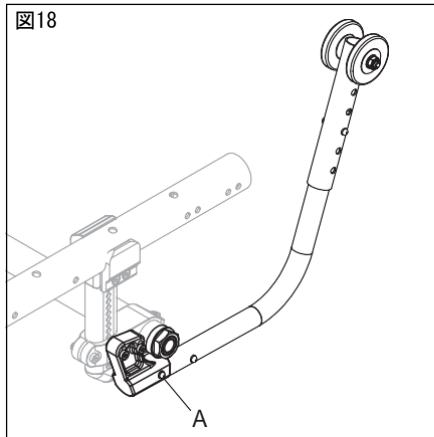
図17

## IV. 車椅子の使い方と構成

### P. 転倒防止装置(前ページの続き)

転倒防止装置を上に向ける(図18)

1. 転倒防止装置後部のリリースピンを押します(図42:A)。
2. ピンを押したまま、転倒防止装置を上に向けます。
3. ピンを解放します。
4. 反対側も同様に実施します。
5. 解除が必要な動作が完了したら、転倒防止装置を元に戻します。



### Q. 表面温度

#### ⚠️ WARNING ⚠️

警告:表面温度が高い状態の車椅子を取り扱うと、危険な状況が発生する可能性があり、回避しないと怪我をする可能性があります。

直射日光やその他の輻射熱源に長時間さらされると、車椅子の表面温度が想定される推奨制限を超えて上昇する可能性があることに注意してください。

## IV. 車椅子の使い方と構成

### R. シート生地

#### ⚠ WARNING ⚠

警告：摩耗して破れるなどの兆候が見られる座面や背面のシート生地は、ただちに交換する必要があります。これを怠ると、シート生地が故障し、転倒して重傷を負ったり死亡する恐れがあります。

シート生地の素材は経年劣化します。車椅子への移乗の繰り返しは生地の劣化を早めます。特に端や縫い目の部分に、切れやほつれがないか確認します。これは毎月行う必要があります。また、洗濯や過度の湿気は生地の難燃性を低下させますので注意してください。適切なクリーニングとメンテナンスに関する注意事項については、「点検と手入れ」の項目を参照してください。座面や背面に懸念がある場合、またはシートを交換する必要があると感じた場合は、車椅子販売店に連絡してください。

### S. 折り畳み式バックサポート

#### ⚠ WARNING ⚠

警告：車椅子をリリースバーで持ち上げないでください（図19:A）。車椅子をリリースバーで持ち上げると、部品が故障し、転倒して重傷を負ったり死亡する恐れがあります。

⚠ バックサポートがラッチで固定されていないときは、車椅子に座ったり操作したりしないでください。転倒し、重傷を負ったり死亡する恐れがあります。

#### 折り畳み式バックサポートの使い方

1. バックフレーム後方にあるリリースケーブル（図19:A）を外側に引いてラッチを外し、バックサポートをシートフレームに向けて前に倒します（図20）。
2. バックサポートを元の位置に固定するには、リリースケーブルを外側に引くと、バックサポートのロックが解除され、元の位置に戻すことができます。バックサポートはサイドフレームに自動的に固定されます。
3. バックレストフレームをまっすぐに引っ張って、ラッチをしっかりととかみ合わせ固定します。

図19

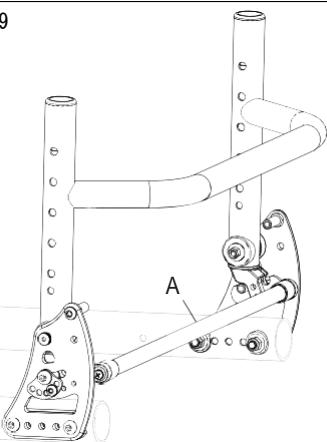
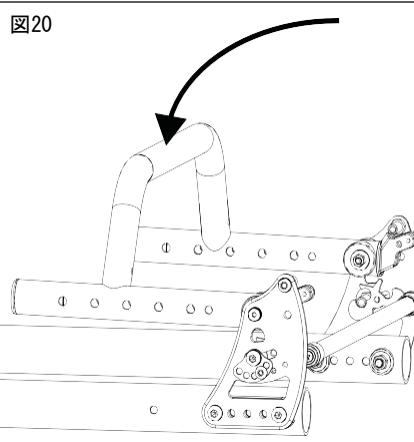


図20



## IV. 車椅子の使い方と構成

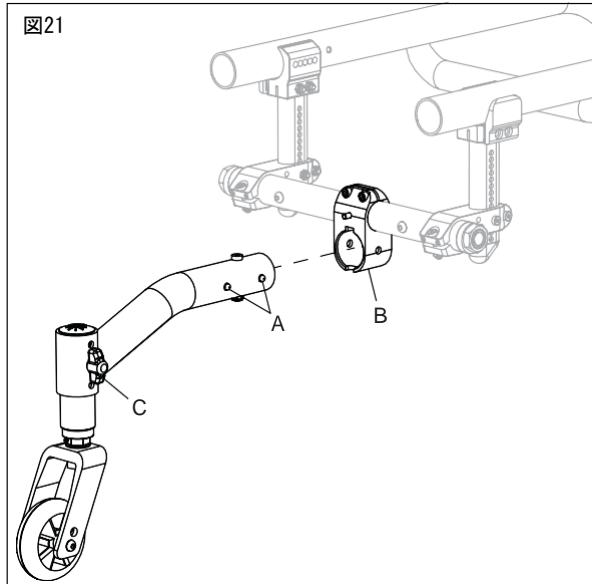
### T. スタンダード5ホイール

5ホイールを調整するときは、車椅子の使用中に遭遇する可能性のある段差をはじめとする障害物等を考慮してください。5ホイールが地面に接触すると、リアホイールが地面から浮いてしまう可能性があります。地面と5ホイールの間に常に十分なクリアランスを確保してください。

#### スタンダード5ホイールの使用方法

1. 取り付けと取り外し
  - a. サポートチューブの2つのリリースボタン(図21:A)を押し、両方のボタンを内側に引っ込めます。
  - b. アセンブリをサポートチューブレシーバーに挿入します(図21:B)。
  - c. リリースピンボタンがレシーバーの取り付け穴に配置されるまで、サポートチューブを下に回転させます。
2. 床からの高さ調整
  - a. キャスターハウジングはサポートチューブ内で調整可能です。
  - b. キャスターハウジングをサポートチューブに固定しているボルトからウイングナット(図21:C)を取り外します。
  - c. ハウジングを希望の高さまでスライドさせ、ボルトを元に戻し、ウイングナットを固定します。

図21



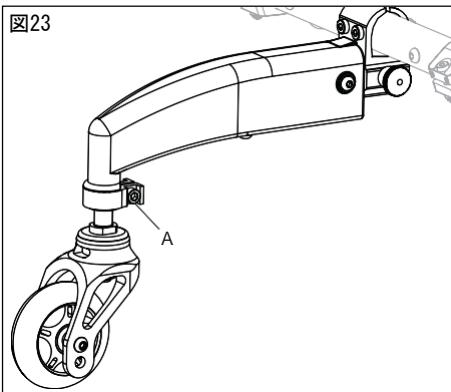
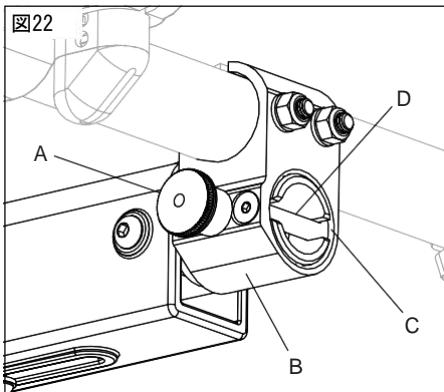
## IV. 車椅子の使い方と構成

### U. ダイナミック5ホイール

5ホイールを調整するときは、車椅子の使用中に遭遇する可能性のある段差をはじめとする障害物等を考慮してください。5ホイールが地面に接触すると、リアホイールが地面から浮いてしまう可能性があります。地面と5ホイールの間に常に十分なクリアランスを確保してください。

#### ダイナミック5ホイールの使用方法

1. 取り付けと取り外し
  - a. 取り外すには、リリースノブ(図22:A)を引いてロッキングピンを外し、アセンブリを管状レシーバー(図22:B)から引き出します。
  - b. アセンブリを插入するには、リリースノブを引いて(図22:A)、アセンブリを管状レシーバーに挿入します(図22:B)。
  - c. レシーバーのアセンブリを回転させ、スロット(図22:C)とクロスピン(図22:D)の位置を合わせます。
  - d. ノブを放します(図22:A)。
2. 床からの高さ調整
  - a. キャスターインナーハウジングは、アーム内で調整可能です。
  - b. クランプリングの6mmボルトを緩めます(図23:A)。
  - c. キャスターフォーケアセンブリをつかみ、目的の高さまで上下に動かします。調整中は、ハウジング内でキャスターインナーハウジングを回転させないように注意してください。
  - d. クランプリングの6mmボルトを締め直します(図23:A)。



## IV. 車椅子の使い方と構成

### U. ダイナミック5ホイール(前ページの続き)

#### 3. バネの力の調整

- ダイナミック5ホイールアセンブリを車椅子から取り外します。手順については、このセクションの手順1を参照してください。
- アセンブリの下側にある6mmネジを緩めます(図24)。
- スプリングレートを下げるには、ネジとエラストマーをキャスターフォークアセンブリから離す方向へスライドします。スプリングレートを上げるには、ネジとエラストマーをキャスターフォークアセンブリに向かってスライドさせます。
- 6mmネジを締め直します(図24)。締めすぎないでください。

#### 4. エラストマーの変更または交換

Cl ikには、ダイナミック5ホイール用に硬さの違う2種類のエラストマーが用意されています。硬いものは黒、柔らかいものは黄色です。

- ダイナミック5ホイールアセンブリを車椅子から取り外します。手順については、このセクションの手順1を参照してください。
- 2本の4mm六角レンチを使用し、ダイナミック5ホイールアーム(図25:A)の片側から6mmネジを取り外します。
- 六角レンチを使用し、ねじ山付きバレル(図25:B)をアームアセンブリから押し出します。
- 管状レシーバー(図25:C)をアセンブリから引き出します。
- アセンブリの下側にある6mmネジを外します。これによりエラストマーが解放されます(図25:D)。エラストマーを取り外し、脇に置きます。
- 新しいエラストマーをアームアセンブリの開口部に挿入します。ネジ山付きインサートをスロットに向けて下向きにし、アームのスロットに合わせます。
- 6mmネジとワッシャー(図25:D)をスロットに通し、エラストマーのネジ山付きインサートにねじ込みます。
- 6mmネジを締め直します(図25:D)。締めすぎないでください。
- 管状レシーバー(図25:C)をアームに再挿入します。管状レシーバーのフラットアームがエラストマーの上部に配置されていることを確認します。
- アームと管状レシーバーの穴を合わせて、ネジ付きバレル(図25:B)と6mmネジ(図25:A)を挿入します。
- 2本の4mm六角レンチを使用して6mmネジ(図25:A)を締めます。

図24

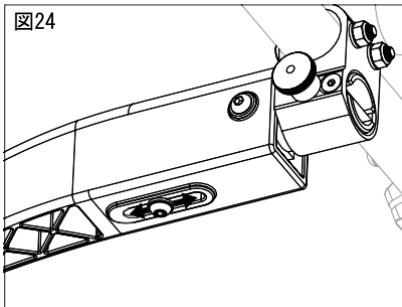
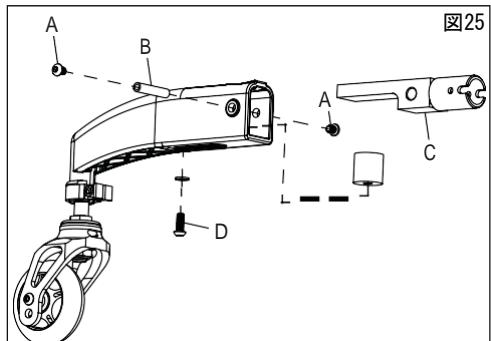


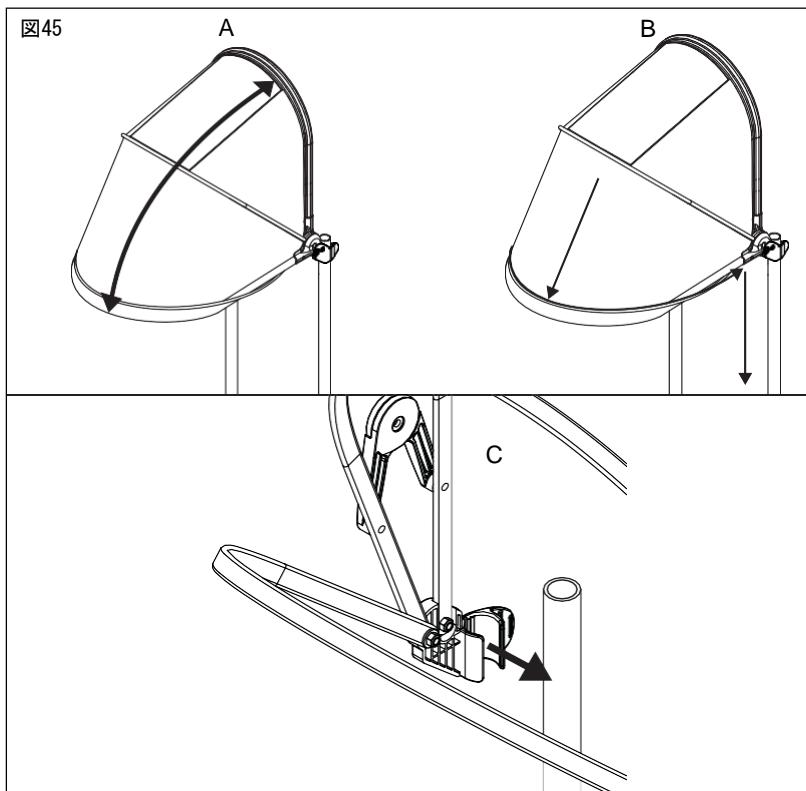
図25



## IV. 車椅子の使い方と構成

### V. キャノピー

1. 折りたたみ（図45:A）
  - a. 閉じるには、キャノピーの前端を持ち上げ、前端を後端まで持っていく、キャノピーを折りたたみます。
  - b. 開くには、キャノピーの前端を持ち、キャノピーが完全に開くまで引き下ろします。
  - c. 車椅子を持つ際には、キャノピーの破損を避けるため取り外しておくことを強く推奨します。
  - d. 車椅子の車載時には、キャノピーは取り外しておく必要があります。
2. 取り外しと取り付け（図45:C）
  - a. キャノピー両側のレシーバーをバックパイプから外してキャノピーを取り外します。
  - b. キャノピーを取り付けるには、両側のレシーバーをバックパイプに差し込みます。必要に応じて高さを調節します。
3. レインキャッチ（図45:B）
  - a. キャノピーの端は折りたたまれており、雨を受け止めユーザーにかかりにくい構造です。



# V. 点検と手入れ

## A. メンテナンステーブル

定期的かつ周期的なメンテナンスにより、車椅子の性能を向上させながら、寿命を延ばすことができます。車椅子の修理、部品の交換、および実行に不安があるメンテナンスチェックは、認定サプライヤーが行う必要があります。コンポーネントを交換するときは、Ki Mobility認定の部品のみを使用してください。

### ⚠ CAUTION ⚠

注意：石油系溶剤、脱脂剤、脱水剤（自動車用クリーナー、アルコール、WD-40を含むがこれらに限定されない）は使用しないでください。コンポーネント、ペアリング、または塗装等が損傷する可能性があります。

チェック項目	週ごと	月ごと	年ごと
タイヤの空気圧を確認し、必要に応じて空気を入れます。適切な空気圧はタイヤに記載されています。	✓		
ブレーキのかかり具合を確認します。タイヤの空気圧の変化やタイヤの摩耗次第で、ブレーキを調整する必要があります。調整手順は、このマニュアルの「ブレーキ」セクションに記載されています。	✓		
アクスルスリーブとアクスルプレートを点検し、アクスルスリーブナットがしっかりと締まっていることを確認します。	✓		
クイックリリースアクスルが適切に接続、解放されていることを確認します。	✓		
キャスターホイール、転倒防止ホイール、リアホイールが自由に回転することを確認してください。問題がある場合は、クリーニングまたは部品交換が必要になる場合があります。	✓		
キャスターハウジングとペアリングの周囲を清掃します。これは、髪の毛のたまりやすい場所です。	✓		
車椅子を清掃します。腐食性のこぼれ(食べこぼし等)やバイオハザードにさらされた場合は、すぐに汚染物質を除去してください。手順については、このマニュアルの「クリーニング」セクションを参照してください。	✓		
リアタイヤ、転倒防止ホイール、キャスターホイールに摩耗箇所や損傷がないか確認してください。必要に応じてすぐに交換してください。	✓		
ハンドリムをチェックして、安全で損傷していないことを確認します。	✓		
ハンドグリップが回転したり、外れたりしないことを確認してください。必要に応じて交換してください。	✓		
アームサポートレシーバーに留め具の緩みや欠落がないか確認し、しっかりと固定され、適切に調整され、取り付け位置が維持されていることを確認します。	✓		
転倒防止装置が機能していることを確認します。	✓		
フレームや転倒防止装置に変形、欠陥、ひび、くぼみ、曲がりがないか調べます。これらは車椅子の疲労の兆候である可能性があり、故障につながる可能性があります。車椅子の使用を直ちに中止し、車椅子販売店に連絡してください。		✓	
車椅子のファブリック類に摩耗、ほつれ、穴の兆候がないか確認してください。必要に応じて、すぐに交換してください。		✓	
アームパッド、クッション、バックサポートに損傷、裂け目などがないか確認してください。		✓	
すべてのネジ類が締まっていることを確認してください。特に明記されていない限り、ネジ類は4.51N/mで締めます。		✓	
スパークの緩み、破損、曲がりがないかホイールを確認してください。必要に応じてすぐに交換してください。		✓	
車椅子が簡単かつまっすぐに転がることを確認します。		✓	
車椅子販売店に車椅子の点検と調整を依頼してください。			✓

# V. 点検と手入れ

## B. クリーニング

### ⚠ CAUTION ⚠

注意：難燃剤を含む布張りのアイテム類を洗浄すると、ラベルに示されているように、時間の経過とともに難燃剤の効果が低下する可能性があります。これにより、直火またはその他の発火源にさらされたときに発火する可能性が高まり、怪我のリスクが高まる可能性があります。

#### アクスル、ホイール、タイヤ、可動部品

1. 毎週、湿らせた布でアクスルとホイールまわりを清掃します。
2. 髪の毛や糸くずが、キャスターハウジングとリアアクスルの中および周囲にたまります。  
固いブラシまたはピックで取り除きます。ペアリングシールを傷つけないように注意してください。

#### 塗装面

1. 布と中性洗剤を使用して手洗いします。
2. 清潔な布を使用して乾かすか、車椅子を自然乾燥させます。
3. 非研磨ワックスを使用して、塗装面を保護することができます。

#### 布製部品

1. 布と中性洗剤を使用して手洗いします。
2. 自然乾燥させます。**絶対に機械で乾かさないでください。**

#### プラスチック部品

1. 布と中性洗剤を使用して手洗いします。
2. プラスチック部品を損傷する可能性があるため、溶剤や強力なクリーナーは使用しないでください。

#### 消毒

1. 70%以上のアルコールまたは清拭剤で表面を消毒します。洗浄液に浸したりしないでください。

消毒剤をすぐに拭き取らず、15分以上放置したのち清潔な布で拭き取ります。

## C. 保管

1. 車椅子を使用しないときは、清潔で乾燥した場所で保管してください。そうしないと、車椅子が錆びたり腐食したりする可能性があります。
2. 車椅子を使用せず2か月以上保管されている場合は、使用前に車椅子販売店による点検と整備を受ける必要があります。

## V. 点検と手入れ

### D. 廃棄

地域によっては特定の廃棄物処理またはリサイクル規制が施行されている可能性があり、処分の手配を行う際にはこれらを考慮に入れる必要があります。これには、廃棄前の車椅子の清掃または汚染除去が含まれる場合があります。

材料のリサイクルが必要な場合は、一般的に車椅子のコンポーネントに使用されている以下のリストを参照してください。

- **アルミニウムフレーム、キャスター、マウント、ペアリングハウジング、キャンバーチューブアセンブリ、バックパイプマウントプレート、バックパイプ、バックサポートトリリースバー、プッシュハンドル、フットサポートチューブ、フットプレート、シートレール、ハンドリム、ホイールリム**
- **スチールネジ類、ナット類、クイックリリースアクスル、キャスター、システム、バックサポートトリリースラッチ、ホイール、スポーク、ベーリング、アクスルスリーブ**
- **プラスチックリアホイール、キャスター、タイヤ、プッシュハンドルグリップ、アームサポートパッド、チューブ、プラグ**
- **布製部品—ポリエステル織物、ポリウレタンフォーム**

欧州指令2012/19 / EU、WEEE（廃電気電子機器）など、材料のリサイクルが必要な場合、REACとMascotはどちらもWEEEに準拠しており、リサイクルと廃棄に関するガイダンスを提供しています。リユース・リサイクル率を高めるには、適切な解体が必要です。鋭利なエッジとの接触を避けるために、適切な工具を使用し、取り扱い時の保護対策が必要です。

リサイクル記号が付いたプラスチックや熱可塑性部品はリサイクルできます。留め具を含むアルミニウム、銅、鋼の部品はリサイクルできます。ケーブル、バッテリー、PCBは、地域の要件に応じて個別に廃棄する必要があります。

車椅子を経済的な理由で処分できない場合、または適切に処分できない場合は、車椅子販売店と相談の上、適切に処分してください。

# VI. トラブルシューティング

## 症状と解決策

最良のパフォーマンスを得るには、車椅子を時々調整する必要があります。以下は、車椅子の使用中に遭遇する可能性のある潜在的な症状のリストと、推奨される解決策です。トラブルシューティング時に最良の結果を得るには、2番目の解決策に進む前に、一度に1つの解決策を試してください。症状が緩和されない場合、または解決策を実行することに自信がない場合は、車椅子を車椅子販売店に持ち込んでの修理を推奨します。

### 解決策

- A - 可能な場合は自分で調整するか、車椅子販売店に依頼してください。  
B - 車椅子販売店に依頼してください。

操作方法	症状						
	走行時の片流れ	車椅子の緩み	旋回不良	キャスターの浮き	キャスターの暴れ	きしみ・カチッという音、ガタつき	グラつき
A	全てのタイヤの空気圧が正しく、等しいことを確認する。	X		X	X		X
A	すべてのネジ類が適切に締められていることを確認し、必要に応じて締める	X	X	X	X	X	X
B	スポークを締める(存在する場合)		X			X	X
A	キャスターが地面に接触しており、浮きがないことを確認する。	X		X		X	
B	CG設定を最適化する。			X		X	
A	後輪とフロントキャスターの干渉を確認する。	X		X		X	X
A	疑わしい部分のペーツ同士の接合部分をテフロンペースの潤滑剤で潤滑する。					X	
A	キャスターやペアリングまわりのごみを清掃する。	X		X		X	X

## VII. 保証

Ki Mobilityは、この車椅子のフレーム、クイックリリースアクスル(車軸)が、最初の購入者の生涯にわたって材料および製造上の欠陥がないことを保証します。この車椅子のその他すべてのKi Mobility製の部品およびコンポーネントは、Ki Mobilityより出荷された日から1年間、この保証に基づいて材料および製造上の欠陥が発見された場合、ユーキ・トレーディングの選択によりその部品を修理するか交換するかを決定し、無償にてこれを実施します。  
フレームの想定寿命は5年です。

### 保証対象外

1. 下記については保証されません。
  - a. 消耗品類：シート類、タイヤ、肘掛けパッド、チューブ、アームサポートやプッシュハンドルのグリップなど。
  - b. 放置（メンテナンスの不実施）、事故、誤用、不適切な設置または修理に起因する損傷。
  - c. 耐荷重制限を超えた使用での損傷。
2. 車椅子のシリアルナンバータグが削除または変更された場合、この保証は**無効**になります。
3. 車椅子が元の状態から修正や加工がなされ、その変更が失敗に終わったと判断された場合、この保証は**無効**になります。
4. この保証は譲渡できません。ユーキ・トレーディングの販売店を通じて最初に購入されたご利用者にのみ適用します。

### Ki Mobilityの対応

唯一の対応可能な責任範囲は、対象部品の修理または交換です。

### 製品ご利用者様に対応いただきたいこと

- a. 保証期間内に対象製品の状況や不具合を申し出てください。
- b. 製品に関する不具合の申告や修理依頼は、製品を購入された販売店を通じておこなってください。ここで示した保証以外で、市場におけるあらゆる慣例や暗黙のルールなどによる保証は除外されます。



CE